

目次

特集 国際交流	2・3	九州沖縄地区・全国高専体育大会	10・11
シリーズ 研究室訪問	4	NHKロボコン・プロコン	12・13
シリーズ 企業(卒業生)訪問	5	英語弁論大会・エコラン・ソーラーボート	14
オープンカレッジ	6・7	夏季実習報告(M科・A科)	15
第24回体育祭	8・9	トピックス(寮の改修)・編集後記	16

※本文中ににおいて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。
(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科)

物質工学科棟中庭
朝日に輝くキンモクセイの花

特集 国際交流

りょうねい 中国の遼寧石油化工大学が有明高専の 姉妹校となる!

2005年6月17日(金)、有明工業高等専門学校は遼寧石油化工大学（中国遼寧省）と姉妹校になりました。その締結式に参加するため、本校から尾崎校長、氷室副校長、劉先生及び久志庶務課長が、先方に訪問しました。

遼寧石油化工大学は1950年に創立された国立の高等教育機関です。石油化工学院、機械工学学院、情報学院、経済管理学院、理学院など11の学院（日本の大学の学部に相当）からなり、博士課程、修士課程を含めて在学学生の人数は19000人に及びます。

石油化工学院は、化学工学、環境工学、環境科学、応用工学、材料化学、生物化学などの専攻、機械工学学院は建築環境と設備工学、給水と排水工学、金属材料工学などの専攻、情報工学院は電子情報工学、電気工学などの専攻、理学院は情報およびコンピューター科学、数学と応用数学専攻が設置されています。

遼寧石油化工大学は、すでにイギリス、アメリカ、オーストラリア、ロシアなどにある大学と姉妹校協定を結んでいます。そして、大学の学生向けに日本語コースを設置しており、また、外国人の留学生のためには、中国語コースを設置しています。大学のキャンパスには、日本人留学生の姿も見られます。

遼寧石油化工大学は中国の東北部遼寧省撫順市にあります。撫順市では、「石炭の露天堀」が有名です。また、「北山」があり、「渾河」もあります。撫順市の人口は220万人です。周辺には世界遺産が何ヶ所もあります。



姉妹校締結式のようす



締結式の尾崎校長、劉先生、氷室先生



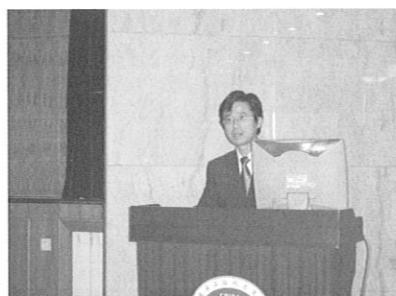
遼寧石油化工大学秦党書記、陳副校長他



協定書にサイン



協定書を交わす



有明高専の紹介をする氷室先生



大学構内



整備途中の大学の建物



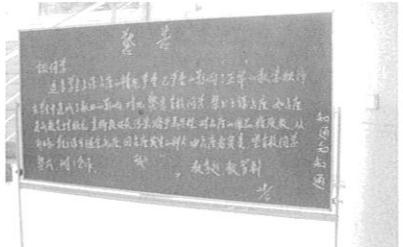
学生寮



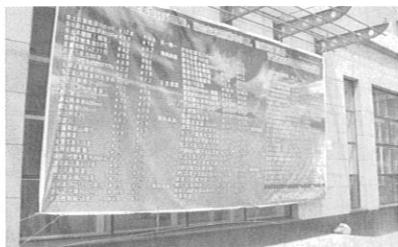
授業のようす



教室



掲示板



大学食堂のメニュー



スーパーのような大学の売店



売店のレジに並ぶ学生



撫順の商店街



町のようす



撫順における石炭の露天掘

10月23日(日)には本校に遼寧石油化工大学から陳副校長(写真後列右から5人目)、張教授(写真右から4人目)、卢部長(写真後列左から4人目)が来校され、具体的な交流について検討しました。(以下の写真は機械工学科教員との交流の1コマです)。有明高専では、今後、このような国際交流を通じてお互いの理解を深め、お互いの長所を学ぶことで、近い将来、国際社会で活躍できる広い視野・教養を持つ国際性豊かな技術者を育てることが可能になると考えます。

(教務主事 C科 氷室昭三)



機械工学科棟中庭にて機械工学科教職員と

今回は、電子情報工学科の活田健治先生と物質工学科の上甲勲先生の研究室を訪ね、お話を聞きました。

聞き手：E科 出来 恒一

活田健治 研究室（電子情報工学科）

（1）現在の研究テーマをお聞かせください。

機能がプログラム可能なICであるFPGA（Field Programable Gate Array）を用いた各種システムの開発です。ソフトとハードの統合化技術で、様々な方面で応用が進められています。現在は共同研究に関連した汎用電子計測器の開発に取り組んでいます。また、システムの高速動作化の流れをふまえ、回路シミュレータによる実装回路特性評価や高速回路設計についても研究しています。

（2）この研究を始めたきっかけをお聞かせください。

4年前にこちらに赴任してきました。地域貢献の方策を練っているとき、偶然、ある地元企業からお誘いがあって、LSI試験機システム関係の共同研究を始めました。その中から、柔軟性、拡張性、経済性に優れたFPGAを使ってシステムを構築することになり、予備検討を経て昨年から本格的に研究を開始しました。

（3）研究で苦労されたこと、心がけていらっしゃることなど、お聞かせください。

この分野も変化が激しいので、核心の見極めに時間を割かれます。応用を考えるのは楽しいのですが、アイデアの段階から具体的なものに至るまで、特許などの権利化も忘れないようにしています。

卒業研究生の皆さんには、システム記述のソフトから、電子部品や機構部品を含むハードの幅広い技術を統合してひとつのものを作り上げる体験をする場を提供するよう心がけています。

（4）今後の研究の方向をお聞かせください。

計測器だけでなく各種システム開発へ展開し、方法論として確立していきたい、と考えています。また、今後とも共同研究などを通して、地域に技術を集積するお手伝いをするという方向で努力していきます。

（5）学生へのアドバイスなどありましたら一言お願いします。

何事にも興味を持つことです。そうすれば、「あれ、不思議だな」、「どうしてだろう」に出会えます。技術の出発点もここにあります。これがないと、技術関係はただ面倒で退屈なものになります。次に、不思議に出会えたならば、先ずは自分の知恵を傾けて謎解きをすることです。最初から安易に他を頼ってはいけません。これが癖として身につければ、技術の世界で愉しんで仕事ができます。



研究室の学生達と

上甲 勲 研究室（物質工学科）

（1）現在の研究テーマをお聞かせください。

- ・導電性ダイヤモンド電極を用いた電解排水処理システムの研究開発
- ・触媒を用いた水中有害化学物質の無害化処理技術の研究開発
- ・窒素含有排水処理システムの研究開発
- ・排水中リンの除去・回収技術に関する研究などです。

（2）この研究を始めたきっかけをお聞かせください。

大学の卒業研究で水中微量元素の分析を可能にするための選択的イオン交換体の調製と同イオン交換体を用いた分離濃縮・分析を行いました。そのとき、物質の吸着現象や表面反応に興味を持ち、以後吸着や表面反応を応用したテーマを中心で研究してきました。その研究がきっかけで企業の研究所で多くの分離技術関連の研究開発に携わりました。シリカゲル、ゼオライト、リン酸カルシウム、グルコマンナンゲル、白金電極等々、多くの機能材料との出会いがあり、最後に人工ダイヤモンドの機能に魅せられて今の研究に取り組んでいます。

（3）研究で苦労されたこと、心がけていらっしゃることなど、お聞かせください。

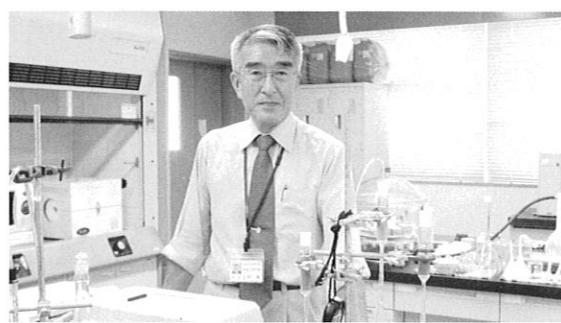
実験結果を大切にすることです。うまくいかなかつた実験結果は特に大切です。どこか、自分の考えがおよばないところがあったのか、考えの道筋が間違っていたのか、何か原因があるはずです。このあたりを追求することで新しい着想や新発見が生まれると思います。

（4）今後の研究の方向をお聞かせください。

ダイヤモンド電極と触媒技術を中心に有明海の環境保全や有明海沿岸地域の企業の皆さんに役立つ研究を行っていきたいと思っています。高専での研究でも、その成果を社会に役立つ技術に育て上げることが重要と考えています。自分自身が研究した成果が具体的な装置になり、環境改善に寄与できることで研究の達成感が味わえます。

（5）学生へのアドバイスなどありましたら一言お願いします。

実験をすることによって得られる驚き、感動を通して研究の面白さを体得してもらえばと思います。実験し手を動かすことによって、考え、検証し、机上だけではこれまで理解が難しかったことも容易に理解できることがあります。



実験室にて

シリーズ 企業(卒業生)訪問

ユニバーサル造船(株)・有明設計(株)・日立造船メカニカル(株)

(熊本県玉名郡長洲町大字有明1番地)

主要製品：船舶、海洋構造物、塔槽等圧力容器、電気・制御装置

本シリーズ第2回目は、長洲町にある日立造船株・ユニバーサル造船株ならびにその関連企業にお勤めの本校卒業生にお話しを伺いました。集まってくれたのは、日立造船メカニカル株で取締役総務部長をされている今古賀義廣氏（M科1期）、ユニバーサル造船株に勤務されている堺淳三氏（A科8期）、登川康則氏（M科17期）、荒巻高広氏（E科19期）、有明設計株に勤務されている浦塚精氏（E科18期）、下田辰二氏（E科19期）、荒木博之氏（A科16期）の7名の方です。

取材：I科 嘉藤 学

嘉藤：最初に、貴社で携わってこられた仕事を教えてください。

堺：設計部で船の構造を設計しています。

登川：造船部技術室で造船用ロボットの開発・導入・フォローに携わっています。

浦塚：電気設計をしていましたが、現在は品質保証部で船舶機械の品質保証に携わっています。

下田：船舶事業部で基本設計に5年間、生産設計に3年間取り組んできました。

荒巻：品質保証部で電気の品質保証に携わってきました。

荒木：舾装（ぎそう）設計部で船装の設計をしています。

今古賀：入社後プラントの見積を担当していました。その後、組合役員を経験し総務部に移り総務部長をしています。

嘉藤：仕事に関連して在学中にもっと勉強しておけばよかったという科目は何かですか。

浦塚：「機械工学概論」です。私は電気工学科出身ですが、現在、機械に関連する仕事をしているためです。

一同：「英語」です。海外のお客さんとも交渉しなければならず、英語ができなければ全く仕事になりません。

嘉藤：やはり英語は大切なですね。次に、仕事を通じて得られた喜びや仕事に対する誇りを教えてください。

堺・荒巻・荒木：自分の携わった船が完成し、その船を見送るときが嬉しいですね。

今古賀：会社が苦況のときに社員に月給と賞与をなんとか払えたときに大いに安堵しましたね。

登川：自作のソフトウェアでロボットを動かすときはハラハラドキドキ感があります。ロボットが初めて動いたときはとても嬉しいですね。

浦塚：「良い船ができた」とお客様から言われたときです。

下田：日本で有数の造船メーカーである当社で30万トン級の巨大タンカーの製造に携わることが誇りです。

嘉藤：仕事を通じた喜びが伝わってきました。次に、仕事上で困ったことをどのように解決したかを教えてください。

下田：入社して初めての仕事でとても苦労しました。その際、分からることは自分で必死に調べましたが、それでも分からることは先輩から教えてもらって解決していました。

登川：トラブルが発生したときは、周りの人と協力して解決します。



後列左から 下田、浦塚、堺、登川
前列左から 荒巻、今古賀、荒木の各氏
(会社の会議室にて)

堺：外国人の船主さんから船の強度が足りないと補強を求められたのですが、資料を作成し、その資料を使って充分な強度があることを示すことで納得してもらいました。

今古賀：会社が不景気な時に、リストラの実施を含めて、どのように対応するかということに苦労しました。「明日は今日よりも良くなる」と信じて、あまりよくよ考えないようにしました。

浦塚：上下関係他で問題が生じても、技術的な実力を身に付けることで解決してきました。

一同：船は大勢の人で造ります。したがって、問題が発生した場合、チーム全体の問題として捉えてチームで解決を図ります。問題が発生したときは、まず報告することが大切となります。その上で、自分の責務を果たしていきます。

嘉藤：最後に、学生時代にやっておくべきこと、あるいは社会人として必要なことを教えてください。

浦塚：学生時代はクラブ活動でラグビーをやっていました。あの厳しかった夏合宿を乗り越えたことが自信となっています。

今古賀：成績は中程度以上でよいと思います。これは、単に試験の成績が良いという頭の良さではなく、「問題の本質がどこにあるのか」ということを捉える頭の良さが大切だという意味です。また、体育会系でフレキシビリティ（柔軟性）を持って物事に対応できることと、誠実さ（まじめさ）があれば社会でやっていけると思いますよ。

堺：対人関係を上手くやっていくことが望されます。学生時代にクラブに所属し、上下関係を体験することは大切だと思います。設計の仕事をしていますが、精神的な体力と肉体的な体力の両方が必要だと感じていますね。

登川：仕事をスムーズに進めるためにも広い人間関係を構築することが求められます。

下田：学生時代は体力を付けてください。また、礼儀は社会人として最低限守るべきものです。最近は挨拶ができない人が多いようです。

荒巻：対人関係の基本として礼儀を守ることが必要だと思います。嘉藤：今日は大変ありがとうございました。

「オープンカレッジ2005～好奇心全開～」 開催レポート

2005. 08. 26→27

天候にも恵まれた8月26日・27日の2日間、900名近い来校者を迎えて「オープンカレッジ2005～好奇心全開～」が行われました（「日本高専学会年会」同時開催）。オープンカレッジは、地域の方々に本校が持つ多面的な魅力を理解していただくために開催されたものであり、本年度初めて取り組む新しいイベントでした。

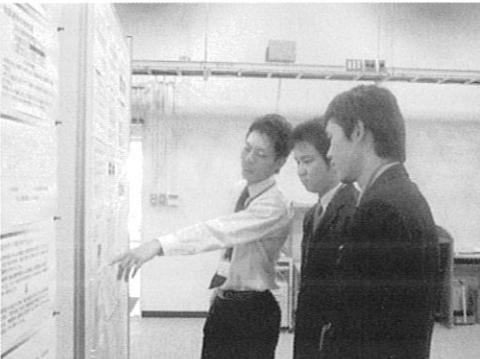
「学術ゾーン」「モノづくり体験ゾーン」「展示・発表ゾーン」という、3つの会場に分けられた本校キャンパス。期間中は、そのあちこちで、子供たちの元気な笑顔や真剣な眼差し、学生や教職員の優しい笑顔など、様々な人たちの様々な表情が溢れ、それらが彩りとなりオープンカレッジは大いに賑わいました。

今回の「高専だより」では、そうしたオープンカレッジの様子を、みなさんにご紹介します。（オープンカレッジ実行委員 A科 加藤浩司）



学術ゾーン [専攻科研究発表 米生中学学習成果発表 他]

REPORT 1



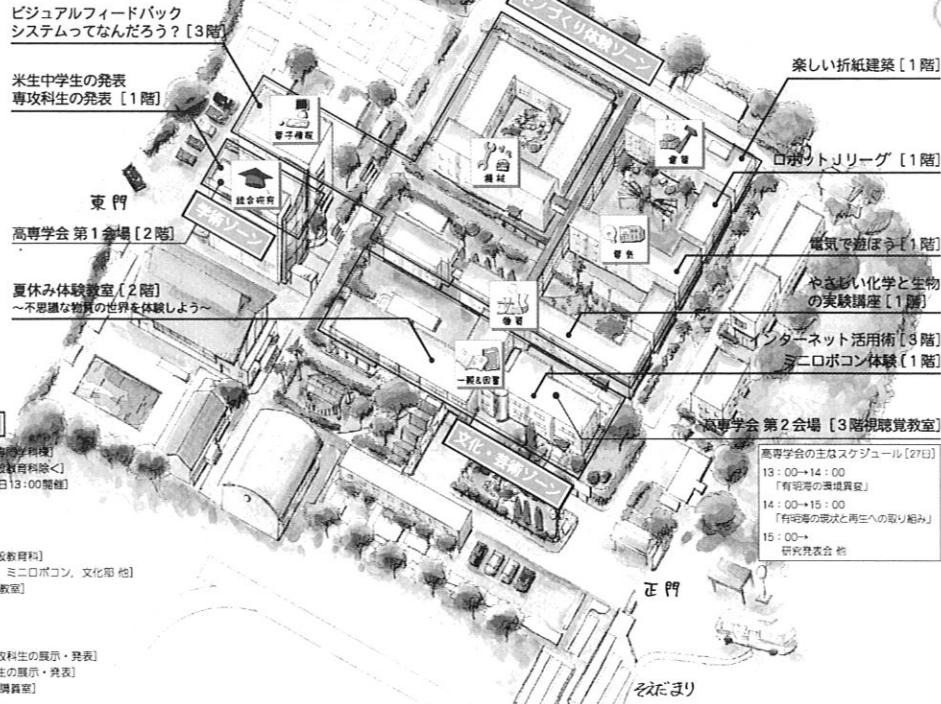
「学術ゾーン」では、専攻科生の研究発表や、大牟田市立米生中学校の生徒さんたちによる学習成果発表などが行われました。

ポスターセッションは「日本高専学会第11回年会」として行われ、専攻科生が日頃の研究成果を発表し、活気溢れる議論が繰り広げられました。また、「環境」をテーマとする講演会なども実施され、全国の高専教員たちが本校に集まり、熱心な議論や情報交換を行いました。

米生中学校の皆さんには、「総合的な学習」の成果を発表していただきました。テーマは、「環境」と「福祉」。学習成果がまとめられた沢山の模造紙には、「中学生ならでは」の視点が盛り込まれてあり、それらを見た大人たちは感心するばかり。何よりも、緊張しながらも、自慢げに説明をする生徒さんたちの姿が印象的でした。



オープンカレッジ会場内
～有明専キャンバスマップ～



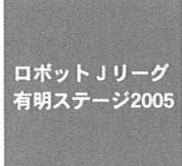


オープンカレッジの目玉企画「ロボットJリーグ」！今年度も、大牟田市と荒尾市から、105名（29チーム）という、多くの小中学生の参加を得て、最高潮の盛り上がりの中で行われました。

夏休み返上で、組み立てられた“ロボットたち”。各チームの創意工夫が凝らされた“ロボットたち”。そして、各チームの想いが込められた“ロボットたち”。競技当日となった27日は、それらロボット29台と小中学生105名が“一心同体”となって、1秒を争う白熱したサッカーゲームが繰り広げられました。

優勝は…。今年も小学生！「緑ヶ丘A（緑ヶ丘小）」が、ダントツの強さで勝ち抜きました。

優勝：緑ヶ丘A（緑ヶ丘小）／準優勝：腹栄（腹栄中）／優秀賞：八幡A（八幡小）、荒尾第三（荒尾第三中）／アイディア賞：荒尾少年少女発明クラブB／美術賞：吉野（吉野小）／ロータリーラブ賞：緑ヶ丘B（緑ヶ丘小）／大牟田市教育委員会賞：大正B（大正小）／荒尾市教育委員会賞：荒尾少年少女発明クラブA



「おもしろ体験教室」と「学科・研究室紹介」は、本校の中身（学習・研究内容や設備の整備状況など）を、地域の方々にわかりやすい形でご紹介するため、行われたものです。

ここでは「おもしろ体験教室」の様子をレポート！おもしろ体験教室では、各学科の特色を活かした体験型のモノづくり教室が行われました。各教室では、子供たちが興味津々に作業に取り組む姿だけでなく、保護者の方々が（おしろ保護者の方々の方が…）熱心に取り組む姿も見られました。また、少しでも多くの学科の特色を、皆さんに知っていただきため、各教室をめぐる“スタンプラリー”も実施されました。これが子供たちに大好評！校舎中を楽しそうに回る子供たちの姿が印象的でした。

E科：電気で遊ぼう！科：ビジュアルフィードバックシステムってなんだろう？／C科：やさしい化学と生物の実験講座／A科：楽しい折り紙建築／G科：夏休み体験教室～不思議な物質の世界を体験しよう～、インターネット活用術
※M科は「ロボットJリーグ」

たくさんの
ありがとう
の気持ちを
込めて…



これからも
よろしく！
の気持ちも
込めて…



OPEN COLLEGE 2005

NCT

有明工業高等専門学校 08.26 fri → 08.27 sat

文化・芸術ゾーン [ミニロボコン体験 文化系クラブ紹介 他]



「文化・芸術ゾーン」には、本校紹介コーナー（パネル展示・ビデオ放映）や文化系クラブの紹介コーナー、そしてアイディア溢れるロボットの操作を体験する、ミニロボコン体験コーナーが設けられました。

子供たちの笑い声が響き渡るキャンパスの中にあって、唯一“ゆったり”と、落ち着いた時間が流れる場…文化系クラブ紹介コーナー。そこでは、その成果を見ながら、日頃の活動内容などについて、来場者の方々と学生たちが会話を楽しむ光景が多く見られました。

一方、ミニロボコン体験コーナー。こちらでは、“好奇心全開”的子供たちが、ロボット操作に熱中する光景が印象的でした。



第24回 体育祭

平成17年10月23日(日)





9

10月23日(日)、秋晴れの好天のもと、第24回有明高専体育祭が開催されました。今年度は、前期授業時間の確保のため、今までの開催日より約1か月遅れの体育祭となりました。各パートとも夏休みから作業に入り、間に、オープンキャンパスや定期試験での中断を挟みながら、計画的に準備・練習を行ってきました。

今回の体育祭は、日没時刻の関係で競技種目もいくつか変更されましたが、全学科とも総合優勝を目指して、各競技に熱戦を繰り広げました。その結果成績は、総合優勝；電気工学科、敢闘賞；建築学科、マスクット賞；機械工学科、バックボード賞；機械工学科、応援賞；機械工学科でした。そして、全学生がそれまでの準備・練習の成果を出し切ってがんばった1日となりました。

また当日は、6月に本校と姉妹校協定を結んだ中国遼寧石油化工大学からの来賓を始め、保護者の皆様、近隣の皆様、他高専関係者の方々がたくさんの皆様にご観覧に来ていただきました。ありがとうございました。 (学生主事補 G科 坂西文俊)



第42回(平成17年度)九州沖縄地区高等専門学校体育大会成績

大会期間 7月10日(日)~7月17日(日)

【全】は全国大会出場

担当校	競 技	種 目	成 績	選 手 名	担当校	競 技	種 目	成 績	選 手 名
佐世保高専	陸上競技	【全】男子100M	優勝	井形 亮(4E)	北九州高専	卓球	硬式野球		初戦敗退
		【全】男子200M	優勝	井形 亮(4E)			バスケットボール	男子 【全】女子	予選リーグ敗退 優勝
		【全】男子4×100Mリレー	優勝	石橋昇平(4A) 池田隆宏(4E) 的場仁志(4C)					
		【全】男子走り幅跳び	3位	井形 亮(4E)			【全】男子ダブルス	2位	酒井陽兵(5E)
		【全】女子100M	2位	的場仁志(4C)			〃	3位	向坂将太(3A)
	バドミントン	【全】女子砲丸投	2位	石橋絵美(5I)					渡辺大也(1I)
		女子4×100Mリレー	3位	安田有希(4A)			【全】男子シングルス	2位	宮崎 進(4A)
				石橋絵美(5I)			〃	3位	渡辺大也(1I)
				栗山明子(3C)			〃	3位	黒田龍太郎(4C)
	ソフトテニス	男子団体戦	予選リーグ敗退				女子シングルス	3位	酒井陽兵(5E)
	水泳	【全】男子団体戦	2位				女子団体戦(オープン)	2位	越智亞祐美(5I)
		女子団体戦(オープン)	2位						
		【全】男子シングルス	2位	田上拓弥(1E)					
		〃	3位	池上慶祐(4E)					
		【全】女子シングルス	優勝	柿木美沙(4C)					
		〃	3位	猿渡 都(5I)					
		【全】女子ダブルス	2位	猿渡 都(5I)					
		〃	3位	柿木美沙(4C)					
				福村美紗岐(2-4)					
				坂口 望(1I)					
	ハンドボール	男子	初戦敗退						
	ラグビーフットボール	※試合日11月19日(土)	初戦敗退						

競 技	種 目	成 績	選 手 名
第35回西日本地区弓道大会 7月16日(土)~17日(日)/新居浜高専担当	男子個人	4位 5位	松原浩太朗(5M) 寺本 一章(3A)

第40回(平成17年度)全国高等専門学校体育大会成績

大会期間 8月3日(水)~8月14日(日)

担当校	競 技	種 目	成 績	選 手 名	担当校	競 技	種 目	成 績	選 手 名
小山高専	陸上競技	男子100M	優勝	井形 亮(4E)	群馬高専	水泳	男子100M平泳ぎ	予選11位	坂本実聰(1E)
		男子200M	優勝	井形 亮(4E)			男子200M平泳ぎ	予選12位	坂本実聰(1E)
		男子4×100Mリレー	優勝	石橋昇平(4A) 池田隆宏(4E) 的場仁志(4C)			男子100M自由形	予選15位	東房 翼(5A)
	バドミントン	男子走り幅跳び	予選敗退	井形 亮(4E)			男子200Mバタフライ	4位	山口大志(2-5)
		女子100M	3位	的場仁志(4C)					
		女子砲丸投	7位	石橋絵美(5I)					
				安田有希(4A)					
東京都立高専	バドミントン	男子団体戦	3位		長野高専	卓球	男子ダブルス	初戦敗退	酒井陽兵(5E)
		男子シングルス	3位				男子シングルス	二回戦敗退	向坂将太(3A)
		女子シングルス	ベスト8						
		女子ダブルス	3位		東京高専立	バスケットボール 女子			渡辺大也(1I)

九州沖縄地区高専体育大会優勝の感想

女子バスケットボール

5C 木下佳美



今年の女子バスケットの九州沖縄地区大会は7月9日、10日に北九州高専で行われました。私達は「大会6連覇」を目標に掲げ、練習を行っていました。しかし、主力メンバーであった先輩方の卒業や練習時間の不足で、大会直前の練習試合にも負け、連覇はとても厳しい状況でした。しかしながら、私達は優勝することができました。今年の試合は本当に大変で、北九州戦では逆転、熊本電波戦では延長といずれも接戦でした。この様な結果になったのは、部員全員が最後まで集中し、諦めずに戦ったことが最大の要因です。本当に最後の高専大会は最高の思い出になりました。

テニス（女子ダブルス）

5C 濱田綾、成清可奈



5年間部活を続けて、たくさんの先輩や後輩と出会い、楽しいことや腹が立つことなど様々なことがありました。最も大変だったことは、

男子との意見の食い違いを調整することでした。でも、周りの部員たちに支えられ、最後まで「女子部員をまとめる」という仕事を二人で果たすことができました。技術面としては、とにかく二人とも練習しました。これがもし頑張っていたのが一人だったなら、どちらもここまでやれなかつたでしょう。本番の圧迫されるような緊張感に勝つには、自分たちはこんなに練習したんだから大丈夫という自信が大切でした。今部活を頑張っている人も、自分に自信を持って、これからも部活を続けてください。

陸上（男子100m, 200m）

4E 井形亮



今回初めて高専大会で優勝できた。インターハイでは勝てたのだが、なぜか高専大会では優勝することができなかった。だから、特別にうれしかった。ふと、なぜ自分が陸上しているかを考えることがある。得意だからという答えで終わらせることが可能だが、

それだけであろうか？走ることとは楽しいのだろうか？そんな疑問を抱きながらも、そこには走っている自分がいる。だから、「走る」それが答えだ。最後に、走ることにおいて重要なことは、自分のため、家族のため、もしくは誰かのためにアピールするため、理由は何だっていい。走りたいと思う気持ちが勝利を導くのだ。

水泳（男子200mバタフライ）

2-5 (I) 山口大志



今年は昨年以上に部活全体でやる気がある中で練習することができたと思います。そのおかげで、僕は九州沖縄地区体育大会で2連覇することができ、さらに、全国高専体育大会でも4位に入賞することができました。惜しくもメダルまでは届かなかったけど、

タイム的には自己ベストを更新することができたし、今年の目標タイムも達成したので、とても良い泳ぎができたと思っています。来年も今年以上に練習して、個人的にはさらに上を目指したいと思います。また、一人一人がレベルアップして、リレーでも全国に行き、「有明強え～」と言わせたいです。

アイデア対決 全国高等専門学校ロボットコンテスト2005 九州沖縄地区大会

平成17年11月13日（日）に荒尾市民体育館でロボットコンテスト2005九州沖縄地区大会が行われました。今年のテーマは“大運動会”。競技内容は手動ロボットで梯子や平均台、ハードルをクリアし、最後は自動ロボットで高い壁の上にある穴にバトンを入れるというものです。本校は地区大会の担当校として、競技・運営全般に携わることとなりました。体育祭や高専大会などの運営については、ルーチンワークとして行っていますが、このロボットコンテストという大会は、高専と言えば“ロボコン”と言われているように、NHKによりテレビ放送される大きなイベントなので、その準備にはかなり四苦八苦しました。準備不足の心配をよそに、大会当日は多くの方々のご来場とご声援により会場は熱気に包まれ、さらに、本校のプラスバンド部による演奏やホンダ技研工業のロボット“ASIMO”的登場が会場のボルテージを高めてくれました。そして、何より参加チームの学生とロボットが多くの熱戦を繰り広げてくれたお陰で、本大会を成功裡に終えることができました。最後に、学生ならびにご協力いただいた多くの方々に感謝の意を表し、心より厚く御礼申し上げます。

(学生主事補 M科 坪根 弘明)



開会式



ASIMO

高専ロボコン2005 九州沖縄地区大会成績

優勝	鹿児島高専A 夢限
準優勝	有明高専B Heavy級
アイデア賞	八代高専A 口デオ
技術賞	大分高専A 高床式ぱっちん号
デザイン賞	都城高専A Rapid Rabbit
特別賞	久留米高専B Helix
	佐世保高専A Cyclic Cap
	有明高専A 忍
	沖縄高専B 琉球ハブ
	北九州高専B trenta



ピットの様子

全国大会出場校

優勝チーム	鹿児島高専A 夢限
推薦チーム	有明高専B Heavy級
	大分高専A 高床式ぱっちん号
	都城高専B Parallel

有明高専Aチーム（ロボット名：忍） シノビ 5M 中島 優作

今年は1月から本格的な活動を始め、今日に至るまで自由な時間はロボコンに費やしたと言っても過言ではないほど約1年間ロボコンに費やしました。今大会は直前まで複数の問題を残したまま本番を迎えた結果は2回戦敗退でした。しかし、自動マシンが評価され、特別賞を受賞することができ、本当に良かったです。去年リーダーに任命され、多々迷惑をかけた中、今回良い成績を得ることができたのは周りの方々のおかげです。本当に有難うございました。



はしごをくぐろうとする忍

有明高専Bチーム（ロボット名：Heavy級） ヘビーキュウ 5M 市岡 祥一

昨年のロボコンが終わってから1年。考えてみれば長かったような短かったような気がしました。4月は初の試みである校内のロボットグランプリが大いに盛り上りました。私はNHKロボコンでは自動ロボットの設計に携わりました。しかし、そのロボットは壁を登る機構が難しく、ある先生からは「無理かもしれないぞ」と言われたほどでした。その言葉通り約半年間、壁登りの機構のみに時間を費やしましたが登りませんでした。成功しないまま大会当日を迎え、自動ロボットを動かすときが来ました。祈るような想いでした。ロボットはその気持ちに応えるかのように登ってくれました。地区大会は準優勝という結果で、念願の全国大会に出場できます。このような大満足な結果を残せたのも多くの方々の支えがあってこそと思います。心から感謝いたします。



平均台を渡るHeavy級



応援席から



大会終了後

プログラミングコンテスト

5I 森 裕生

私は、10月8日(土)から10日(月)まで、鳥取県米子市で開催された「第16回全国高等専門学校プログラミングコンテスト」に参加しました。プログラミングコンテストは「課題部門」、「自由部門」、「競技部門」の3部門があります。私たちは自由部門で、「K-project」という掲示板や、メッセージの送受信による高専間の交流を盛んにしようとするシステムを開発しました。

5月の予選への応募のあと、6月末に予選の審査結果で本選への出場権を得て、夏休み前から少しずつ開発を進めていき、9月に入ってからは、放課後、休日返上でがんばり、システムは無事に完成しました。コンテストでは、プレゼンテーション審査とデモストレーション審査、マニュアル審査があり、審査員からの評判も良く、めでたく敢闘賞を受賞しました。

自由部門の他にも有明高専からは、競技部門にも電子情報工学科の学生が参加し、順調に勝ち進みましたが、惜しくも準決勝で敗退しました。

最後に、お忙しい中応援に来てくださいました、塙本学生主事、池田学生課長にこの場を借りてお礼を申し上げます。



審査を受ける本校プロコンチーム

英語弁論大会

1C 佐藤美紀

7月20日(水)に熊本電波高専で行なわれた第39回九州沖縄地区国立高専英語弁論大会の暗唱の部に、物質工学科1年の枝廣真樹子さんと私が出場しました。弁論大会に出場するのは初めてで不安もありましたが、先生方が本番まで毎日とても丁寧に指導して下さったおかげで良い結果を残すことができました。

英語の文章をただ読み上げるのではなく、感情を込めて発表するのは思っていたより難しいことでした。しかし、練習していくうちに英語を身近に感じることができ、日本語を違う面から見つめ直すこともできました。他の人のスピーチを聴き、色々な人と交流できたことも貴重な体験だったと思います。今回得たもの

を大切にしてこれからも頑張っていきたいです。



会場で顧問の徳田先生と枝廣真樹子さん(中央)佐藤美紀さん(右)

ホンダエコラン

5M 下川渡

こんにちは、自動車工学研究部です。私達は毎年8月に行われるHONDAエコノパワー自動車燃費競技会（エコラン）に参加しています。エコランは自分たちで製作した自動車でガソリン1ℓあたりどれくらいの距離を走行できるかを競う競技会です。この大会での優勝チームは1ℓあたりおよそ3000kmといった記録を出します。私達は今年の目標を自己最高の500km/ℓとし、部員一丸となって研究・開発を進め、大会に臨みましたが、今年の大会は残念ながらマシントラブルによるリタイアで記録を残すことができませんでした。しかし、今年は記録はないものの記録をのばすためには何が必要なのか、マシンの欠点は何なのかよくわかったので、今年の活動を活

かして来年こそは自己最高記録が出せるように頑張っていきたいと思います。

30



顧問の猿渡先生・高橋先生と参加メンバー(競技会場にて)

ソーラーボート

4M 佐藤剛

8月6日(土)、7日(日)の2日間にわたり、福岡県柳川市の堀割で、第10回柳川ソーラーボート大会が開催されました。私たちASP（有明ソーラーボートプロジェクト）は、ものづくりの好きな学生が自発的に集まつたグループで、本科チームと専攻科チームの2チームで学生の部に出場しました。去年の大会は、台風の接近のため中止になってしまい、その悔しい思いを胸にチーム一丸となって頑張ってきました。

大会では、本科チームは見事予選を通過し、決勝レースでも良い成績を修めることができました。専攻科チームも予選を通過することができましたが、決勝レースではスクリューに藻が絡まるというアクシデントに遭い、悔しい思いをしました。

今回の大会に出場したこと、ソーラーボート技術

の基礎が身についたという自信を持つことができました。これからも、さらに良い成績が収められるよう、努力していきたいと思います。



スタート前のボートと参加メンバー

夏季実習報告

楽しかった夏季実習

4M 山 崎 雅 也

僕は、この夏愛知県にある旭精機工業株式会社へ実習に行きました。この会社はもとは、塑性加工を行なっていた会社で、現在ではその金属加工に関する高度な技術を様々な分野に応用して、活躍している会社です。特に印象深かったのは、この会社が作った機械で、自動連続プレスという機械がありました。これは、単能プレス十数台分に匹敵する能力を持ち、さらに絞り成形以外の加工工程を組み込むことができ、一台だけで鉄板を複雑な形状の製品に仕上げることのできるすぐれた機械でした。ここには、機械科の卒業生の方が大勢いて、これから就職するにあたってのアドバイスをしていただいたりして、とても勉強になりました。僕の実習の内容は、超超ジュラルミンのブロックの形状を自由にデザインして切削加工を行うといったもので、切削に用いるマシニングセンタのNCプログラムの作成がメインとなりました。このプログラム作成にあたっては、工具の回転数や切削の送りの速さなど、高専での授業や実習で習ったことを使うことが多々あったのでここで初めて高専での勉強の大変さがわかりました。そして、今まで真面目に取り組んでこなかったことを少しだけ後悔し反省しました。この会社は、名古屋市が近くにあって、おいしい物もいっぱいあって、会社の人たちもとても優しかったので、すごくいい会社だと思いました。この夏季実習で学んだことを、これからに活かして、立派な技術者になれるようになんばっていきたいと思います。



中央が山崎雅也君

夏季実習に行って

4A 松 延 良 枝

私は、福岡市にある(有)J E構造設計に夏季実習として3週間お世話になりました。この事務所は、新築の建物の構造設計をしたり、既存の建物の耐震診断をされている会社です。夏季実習に行く前は、「仕事の邪魔にならないかな」と不安もありましたが、「構造設計にふれられる!」という楽しみな気持ちの方が大きかったです。

しかし、夏季実習に行ってみて初めはショックを受けました。私は、建築学を4年間勉強してきたので、少しは構造設計の内容が分かるだろうと思っていました。しかし、所長や所員の方が話されている言葉の意味が分からず、指示されたことが全然できない状況でした。私が今までに勉強してきたものは建築学の基礎に過ぎず、実際の仕事にまだ応用できる状況ではないと知りました。

それでも、不明な点を一つ一つ調べながら、また所長や所員の方に丁寧に説明して頂きながら進めていくうちに、少しずつ内容が分かるようになりました。実習中に学んだことを最後にまとめるときには、最初の頃よりもずいぶん構造設計のことをわかるようになったなと実感しました。これは、所長や所員の方が親身になって指導してくださったからだと思います。

また、所長や所員の方には、勉強面以外でもいろいろとお話しして頂きました。世の中で起きていることや大学の事、構造設計の仕事の流れなど、夏季実習に行かなければ知らなかつたことや考えなかつたことを学ばせて頂きました。

この3週間で学んだものは、私の中ですごく大きいものとなりました。現在の私もまだまだ勉強不足だと思いますが、この3週間の貴重な経験をこれから学生生活に活かして、もっともっと向上していきたいです。



右端が松延良枝さん

トピックス

岱明寮改修について

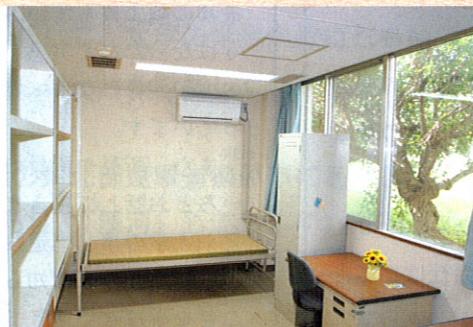
本年度予定されていた、岱明寮の改修工事が夏休み期間中に終了しました。主な改修内容は、銀杏棟居室のエアコン設置工事と、寮生以外の宿泊者用居室を設ける工事でした。

今年は岱明寮のエアコン設置3年計画の2年目にあたり、昨年の女子棟の設置に続き、男子上級生の居室がある銀杏棟への工事がなされました。当初6月には設置が完了する予定でしたが、電源工事が予定より長期化したため使用開始が夏休み後にずれ込んでしまいました。銀杏棟の皆さんには要らぬ期待を持たせてしましましたが、設置後には快適な生活ができていると思います。なお、エアコンの使用料は各人の自己負担になります。

もう一方の改修は、学外からの宿泊者受け入れ開始に伴う居室の改修工事です。学外からの宿泊については、姉妹校となった中国の大学からの研究者の長期滞在や、夏休みに実施されるサマーセミナーに参加する本校以外の学生諸君の受け入れ等が予定されています。これらに対



廊下には電気メーター、外壁には室外機が並ぶ銀杏棟



↑学外学生用の居室

←小さくなりましたが補食室も新しく

応するため銀杏棟1階の東側部分を改修して、教員・研究者宿泊室2室、学生宿泊室5室（12名分）をつくりました。本年度中に寮生以外の宿泊者に対する規則作りを行い、来年度からこれらの部屋の使用を開始する予定です。
（寮務主事室）

編集後記

「何にこの師走の市にゆく鳥」（芭蕉作）早いもので、もう残りひと月のみとなってしまいました。今号でご紹介させていただいたように、6月の遼寧石油化工大学との姉妹校締結から11月のロボットコンテストまで、あっという間に様々な行事を行ってきました。これら一つ一つの行事が行えるのは、小学生から高専生、地域の皆様方、高専卒業生など、本当に多くの方々のご支援の賜物であります。また、有明高専は地域密着型の高等教育機関であります。本校の活動は日本全国はもとより、世界に目を向けて活動しているところです。地域に貢献しつつ、世界中の方々とより良い関係を築きながら、すばらしい卒業生を排出し続けていきたいと思います。

有明高専だより 第117号

平成17年12月8日

編集・有明高専広報委員会

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL0944-53-8861(学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>